

# 渋谷区文化総合センター大和田



北東側外観夜景

## 「渋谷の新たな文化・教育・福祉・健康の拠点」

渋谷区文化総合センター大和田は「渋谷の新たな文化・教育・福祉・健康の拠点」を基本方針とし、区民利用を主としながらも広く人を集める施設として構想された渋谷区最大規模の公共複合施設です。渋谷駅から徒歩5分程の計画地は、学校統廃合により廃校となった区立大和田小学校の跡地であり、都心の限られた敷地に10以上の施設を集積し、使いやすく常ににぎわう空間として成立させることがプロジェクトの大きな課題でした。

建物の低層部には地域性の強い身近な施設、高層部には目的性の高い施設をあてる断面構成で整理し、吹抜けのある縦動線を伴った共通ロビーを中心に各施設をゾーニングすることで、交流や施設間連携を促す空間形成をめざしています。プラネタリウムは最上階の渋谷駅側に配置し、同フロアに設置した屋外観望スペースと併せて様々な天文体験ができる名所として認知されることで、施設の象徴性を高める役割を担うと考えました。

低層部の施設と関連しながら計画地の高低差を利用したアプローチ空間は、小学校であった時の既存樹木が残り、アートワークや黒板をモチーフとしたサインの設置とそれらを演出する照明計画により、オフィスや住宅が集積する地域に向けての憩いのオープンスペースになっています。



2階図書館よりアプローチ空間を望む

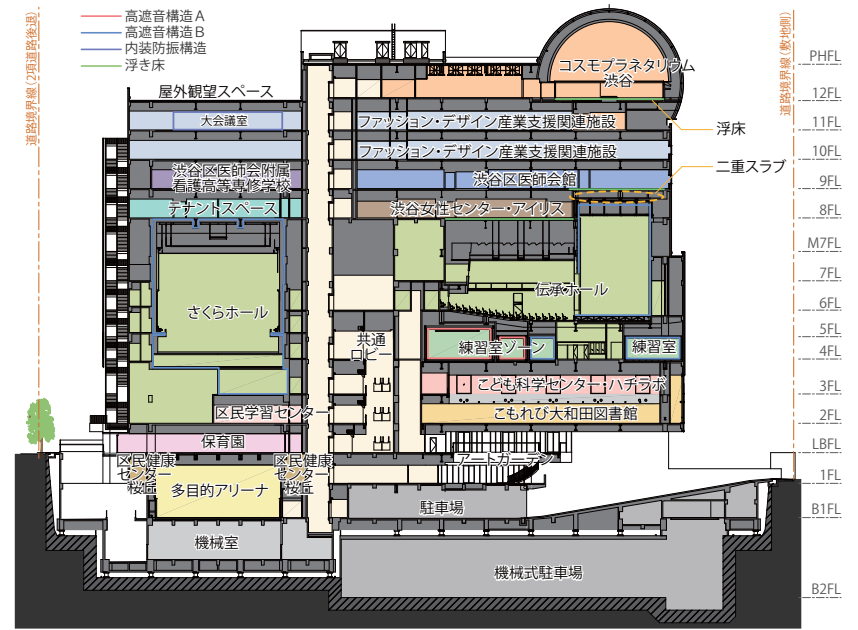
## 駅近くのシンボル

最上階にプラネタリウムのドームを冠した建物は、昼夜を通して誰にでもわかる渋谷駅西口からの新たなシンボルとなりました。

渋谷区文化総合センター大和田は、店舗・オフィスゾーンと住宅地ゾーンの境界に位置した、落ち着いた雰囲気のある桜丘地区における新しい街づくりを先導する施設です。端正で飽きのこない意匠の中にも印象的な照明計画等を盛り込み、開かれた公共施設として日常的な営みを感じられる外観計画を目指しています。



渋谷インフォスターより東側外観を望む



建物概要	
敷地面積	4,967.43 m <sup>2</sup>
建築面積	3,020.27 m <sup>2</sup>
述べ面積	27,402.60 m <sup>2</sup>
建ぺい率	60.80% (許容 100%)
容積率	499.70% (許容 500%)
構造形式	SRC造 (一部S造)、免震構造
規模	地下3階、地上12階
駐車台数	計84台 (自走式8台、機械式72台)
用途	ホール、プラネタリウム、体育館、健康センター、保育園、図書館、学習センター、子ども科学センター、女性センター、医師会館、看護学校、ファッション・デザイン産業支援施設、事務所、店舗
写真撮影	三輪晃久写真研究所